

平成30年3月4日

市民活動発表会  
—まちづくりの輪を広げよう—  
**成果集**



**輝く加東 まちづくりコンソーシアム**

## はじめに

地域社会を取り巻く環境が変化する中で、「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という意識の重要性が高まっています。地域の特性を活かしたまちづくりを実現させるためには、行政だけではなく、市民や地域、事業者など、多様な主体との『協働』が不可欠になっています。

加東市は、大学のあるまちの優位性を活かし、兵庫教育大学と行政、地域、団体、企業など様々な主体が連携・協働し、魅力ある地域社会の創造を目指す「輝く加東 まちづくりコンソーシアム」を平成23年度に設立しました。

「輝く加東 まちづくりコンソーシアム」は設立以来、公共交通や公共施設の適正化について市民の皆さまからご意見を伺い、まちづくりについて考える機会を設けてきました。平成27年度からは市民活動発表会を開催し、加東市まちづくり活動費補助事業に認定された団体や様々なまちづくり活動に取り組まれている団体から、活動について発表していただいています。まちづくり活動への思いやその取組、活動を通して見えてくる課題などから、協働のまちづくりの大切さを認識していただき、市民や地域、行政などのそれぞれの役割について考えるきっかけにいただければと思います。

「市民活動発表会—まちづくりの輪を広げよう—」に参加いただきました団体の皆さま、ご来場いただいた皆さまに紙面を借りて感謝申し上げますとともに、この成果集が市民の皆さまの新たなまちづくり活動の一助になれば幸いです。

## 目次

1	開催概要	1
2	活動発表	2
3	意見交換	10
4	総括	13
5	アンケート結果	14
6	おわりに	16
7	輝く加東 まちづくりコンソーシアムの紹介	18



加東市マスコット 加東伝の助

## 1 開催概要

日時 平成30年3月4日（日）午後2時～午後4時

場所 滝野文化会館 大ホール

主催 輝く加東 まちづくりコンソーシアム

次第 ◆ 開 会

◆ あいさつ

輝く加東 まちづくりコンソーシアム 会長 あらき つとむ 荒木 勉  
加東市長 やすだ まさよし 安田 正義

◆ 活動発表・意見交換

<出演者>

・河高地区歴史書編纂委員会	<small>ふじもと</small> 藤本	<small>たかき</small> 貴樹		
・人形劇団おやゆび姫	<small>まえだ</small> 前田	<small>ともこ</small> 友子		
・おどるかど実行委員会	<small>おおはし</small> 大橋	<small>しょう</small> 翔		
・けんこう <small>しょうかい</small> 笑会	<small>おおくぼ</small> 大久保	<small>たけし</small> 武		
・NPO 法人ペイフワード	<small>くさか</small> 日下	<small>しんいち</small> 伸一		
・f <small>えふ</small> の会	<small>おかもと</small> 岡本	<small>ちえみ</small> 智恵美		
・鴨川地域活性推進委員会	<small>きたやま</small> 北山	<small>みちのり</small> 道憲	<small>こやぶ</small> 小藪	<small>よしまさ</small> 義正
・兵庫教育大学附属小学校	教諭 <small>にしざわ</small> 西澤	<small>ひろかず</small> 宏一		
3年	<small>いさわ</small> 井澤	<small>ゆうすけ</small> 佑介	<small>さかい</small> 酒井	<small>かずと</small> 寿仁
	<small>とみなが</small> 富永	<small>ねね</small> 穂々	<small>しみず</small> 清水	<small>こうせい</small> 皓惺

<コーディネーター>

・兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教授 みなみの 南埜 たけし 猛

◆ 総 括

◆ 閉 会

◇ ロビー 各団体活動内容のパネル展示

## 2 活動発表

### －河高地区歴史書編纂委員会－

新しい世代の住民が増え、地区が大きく変貌していくとき、ふるさと河高地区の歩んできた歴史を史実に基づき掘り起し、資料として後世に伝えていくことは必要不可欠です。

河高地区の歴史書を作成し広く地区内外に発信することで、住民がふるさとをよりよく理解し、ふるさとを愛する心を育てることと、明るく住みよいまちづくりを進めていきます。

### ■ふるさとの歴史を未来へ残す

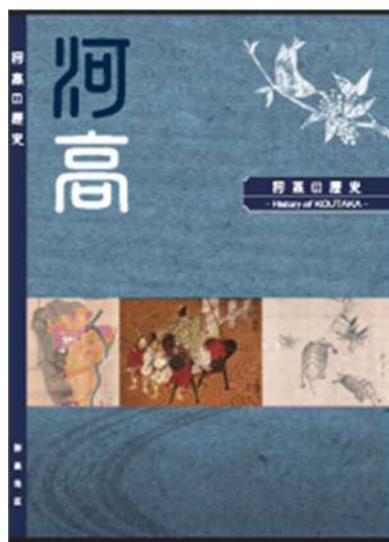
河高地区歴史書編纂委員会は、河高地区の歴史書を作成するために、平成26年4月に設立しました。編纂委員会のメンバーは、区長以下、地区の総務役員、有識者、歴史愛好家の方など11名で構成されています。歴史書「河高の歴史」の編纂、編集会議は平成26年4月から平成30年2月まで30回、編集部会を20回開きました。



河高地区歴史書編纂委員会  
藤本 貴樹 さん

また、イベントとして、歴史特別展「河高お宝発見」と「第1回河高歴史ウォーク」を開催しました。歴史ウォークは、河高の旧所名跡をめぐる約2キロのコースを2時間半ほどの時間をかけて実施しました。

ふるさと河高の歴史を後世に残し伝えること、歴史書を編纂し発信することで、ふるさとを愛する郷土愛を育てること、そして河高の魅力を再発見し、広く知っていただくことで、加東市への興味、関心を呼び起こすまちづくりに寄与したいと思っています。



歴史書「河高の歴史」

## —人形劇団おやゆび姫—

人形劇団おやゆび姫は、子育てサークル、保育園、幼稚園、小学校のほか、高齢者の施設や地区の催しなど、加東市内を中心に北播磨の各地域や、丹波、但馬など、年間20回程度の公演を行っています。

2年に一度開催する「人形劇まつり」では人形劇や紙芝居のほか、指人形作りのワークショップなど、自由に楽しんでもらえるような内容を企画しています。

### ■温かみのある人形劇の舞台を表現

人形劇団おやゆび姫は、1991年（平成3年）に子育てサークルたんぼぼ会の活動から始まり、今年27年目を迎えます。現在のメンバーは40代から60代の12人です。この27年の間に、メンバーの入れ替わりはありましたが、常に10人程度で活動を続けてくることができました。

人形劇に使用する人形、小道具、大道具、脚本、音楽まで全てオリジナルで手作りしてきました。最近では、映像の世界も進歩していて、バーチャルなものが増えています。そんな世の中だからこそ、このように直接触れることができる人形の温かさや、目の前で繰り広げられる生の声、生の音楽でお話を見ることができる舞台の楽しさは、バーチャルなものにはない良さがあると思って活動しています。

子どもの頃におやゆび姫の人形劇を見ていた人が、お母さんになって親子で見に来てくれています。今度はおばあちゃんになって、親子3代で人形劇を見に来てくれるようになるまで活動を続けていけたらうれしいです。

子どもから大人まで楽しめるお話の世界を、ずっと心に残るような人形劇の作品にして届けていきたいと思っています。



人形劇団おやゆび姫  
前田 友子 さん



## —おどるかど実行委員会—

ふれあい民謡グループ（民踊、フラダンス、手話歌など）で市内外のイベントへの参加や、子ども達への民舞指導、加東市のPR等を行っています。

発表会に向けた準備や練習などを通じて、地元の方々との交流を深めること、市外のイベントに参加した際に加東市のPRを行うこと、会員の郷土愛を育てることを目的に活動しています。

### ■踊りを通じて郷土愛を育てる



おどるかど実行委員会  
大橋 翔 さん

平成29年4月に発表会を開催し、ふれあい民謡から102名、ほかにも協力団体の方にも参加協力していただきました。

今回は手話グループとの合同練習、発表があり、手話に興味を持つメンバーが出てきたり、実際に手話を用いて生活されている方とお話ができたり、勉強することができました。

また、加東伝の助と一緒に加東市のPRを行うことで地元への愛着が強まり、大人になっても地元に残りたいという意見が子どもから出てきました。まちづくりにおいて、人の定着は重要であるので、活動を通じて加東市の活性化に貢献できたのではないかと思います。

発表会を開催した経験を生かして、他の団体との交流はもちろん、同様の活動をされる方のサポートもしていきます。

私たちの活動を通じて加東市に多くの人が集まり、加東市に住んでみたい、住み続けたいと思ってもらえるように活動していきます。



## －けんこう笑会－

「手品とクイズで見・考・笑」をテーマに活動しています。手品やクイズを見てもらって、考えてもらって、そして笑ってもらおうというところから、平仮名で「けんこう笑会」という名前がつけました。

おもしろ川柳や漢字の読み、地方名の読み方といった勉強や脳トレにちなんだクイズや、こま回しや皿回しなどの曲芸も取り入れています。

### ■手品とクイズで見・考・笑

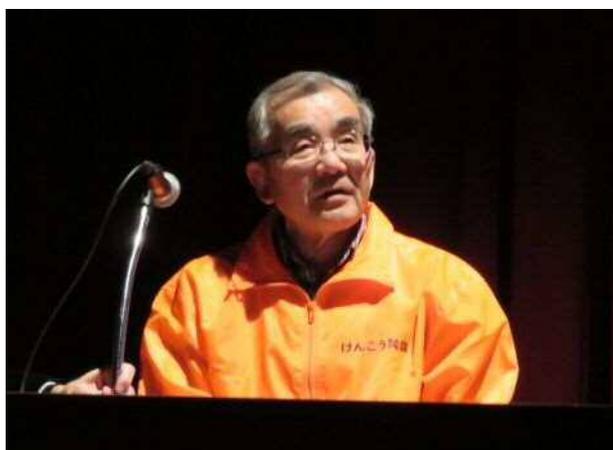
河高の老人会の同好会のひとつとして発足し、3年目を迎えています。「けんこう笑会」の名前は、ひらがなで書いていますけれども、「けん」は「見る」、「こう」は「考える」、「しょう」は「笑う」の漢字を使っています。手品やクイズを見てもらい、考えてもらい、笑ってもらって、健康的な生活をするという意味で名付けています。

活動は毎月1回、各自が手品やクイズを持ち寄り、披露合っています。

活動を多くの人に見てもらうため、地域の行事に参加したり、保育園や介護施設を訪問したりしています。手品を披露するだけでなく、一緒に参加してもらうことで、楽しい時間を過ごしていただき、高齢者の方には生きがいと元気を与えたいと思って活動しています。

活動の1年目は訪問施設が8か所でしたが、昨年には17か所から依頼がありました。その間、演技の種類や技術も向上し、会員も増えてきました。

これからは活動の範囲を加東市以外の地域にも広げていきたいと思っています。そして、演技の種類や技術の向上を目指していきたいと思っています。



けんこう笑会  
大久保 武 さん



## —NPO法人ペイフワード—

毎週土曜日、社福祉センターで子ども食堂を運営しています。子ども達の居場所づくり、学習支援などを行っています。

団体名の「ペイフワード」は日本語で「恩送り」という意味です。子ども食堂のつながりが、子ども達の成長の助けとなり、子ども達の心を豊かにできるように活動しています。

### ■子どもが安心できる居場所づくり

幼稚園やこども園に通う子どもから中学3年生まで、毎週20名程度の参加があります。登録している子どもは50名程度になりました。活動は夕方5時頃から始まり、6時までの間は勉強したり、工作したり、お絵描きしたり、いろんな形で遊んだりして過ごしています。



NPO法人ペイフワード  
日下 伸一 さん

勉強は兵庫教育大学の学生さんに教えていただいています。普段は一人で過ごすお子さんもいますので、学習の習慣づくりや勉強の仕方などを特に教えていただいています。

6時からの食事の時間は、ボランティアの方も含めて一緒に楽しくおしゃべりしながらいただきます。お誕生日会や季節の行事も行っています。

私たちは地域コミュニティとしての子ども食堂をととても大切に考えています。現在全国には500か所ほどの子ども食堂がありますが、資金や人の確保、場所の問題が出てきています。子どもにとって安心できる居場所をなくさないためにも、一度開始した活動を続けていくこ

とが使命だと感じています。

子ども達は地域の宝であり、未来でもありますので、今後とも子ども食堂の活動に対して、地域の皆さんに温かい目で応援していただければうれしいです。



## — f の会（やすらぎとまなびの親の会） —

子どもの不登校や発達障害などの悩みを抱えた親の会です。悩みの共有・共感をし、情報の交換や講演会を開催しています。

抱えている問題について学び、気持ちが少し軽くなれるような居場所の提供をしています。

### ■悩みの共有ができる場所を

f の会というのは、もともと神戸で行っていた学校に行きにくい子どものための演劇サークルの親の会の活動が始まりです。

加東市においても同様の活動をしたいという思いがあり、やすらショッピングパーク Bio 2階の多目的ホールで月に1回活動しています。

子どもの不登校や発達障害などの悩みを抱えた親を対象としています。悩みに共感し、共有しながら情報を交換しています。

専門家の先生に講演もしていただきました。心理カウンセラーの先生や、元学校の先生でフリースクールを運営されている先生などから、子どもとのかかわり方、子どもの心の揺らぎに寄り添うことなどを教えていただきました。

情報を交換し、講演を聞くことで、親がもう一度問題を見つめ直して考える時間がつくれたり、ストレスが軽くなったりできる場所でありたいと思っています。お父さん、お母さんが子どものことでしんどいと感じた時に、ちょっと寄れる自分の居場所にしていきたいので、いつでも来ていただきたいと思います。



f の会  
岡本 智恵美 さん



## －鴨川地域活性推進委員会（きよみずバス協議会）－

きよみずバス協議会では、鴨川小学校区の上鴨川、下鴨川、平木の3地区で自主運行バスの運行をしています。自主運行バスとは、公共交通機関がない地域において、住民の日常生活における移動手段を確保するため、市名義の自家用車を用いて有償で住民を運送する仕組みの事です。

毎週火曜日と金曜日の週2日、1日3往復（計6便）運行しています。

### ■地域の力でバスを運行



鴨川地域活性推進委員会（きよみずバス協議会）  
北山 道德 さん 小薮 義正さん

平成26年3月31日に神姫バス社～清水線が運行休止になり、社方面への公共交通機関がなくなりました。そこで、鴨川3地区において平成26年5月から「きよみずバス」を運行しています。

毎週火曜日と金曜日の週に2日運行し、1日3往復（計6便）運行しています。停留所から自宅や目的地まで近いと評判がよく、運賃は鴨川地区内の移動が100円、地区外の移動が300円で、多くの方に親しまれ、利用者は年々増加しており、欠かすことのできない移動手段になっています。

「きよみずバス」の運転手は、鴨川3地区の住民が交代で乗務しています。運転者講習を受講し、安全運転を心がけています。人を乗せての運転ですので、安全に気を遣いますが、やりがいを感じています。利用者の方からも、運転手が地元の人なので安心して乗車できるという声をいただいています。

料金が安く、何度も利用でき、病院や買い物、娯楽で出かける回数が自然に増えることで、利用者が元気になり、地区全体でコミュニケーションがとれるようになりました。

今後は運転手の確保が課題となります。頑張って続けていきたいと思ひます。



### －兵庫教育大学附属小学校3・4年生－

未来デザイン「加東市附小っ子ツアーをつくろう」と題して加東市の魅力をより知ってもらうためのツアーづくりに取り組みました。

兵庫教育大学附属小学校は、社会の一員として新たな問題を創造的に解決する能力を育むデザイン思考教育を実践する新総合領域「未来デザイン」の教育課程に関する研究開発を行う、文部科学省研究開発学校指定（平成29年度～平成32年度）を受けています。

#### ■加東市附小っ子ツアーをつくろう

兵庫教育大学附属小学校3・4年生は、加東市の魅力をより知ってもらうためのツアーづくりに取り組みました。加東市を知るための学習を進め、実際に観光スポットをめぐりました。観光スポットの良さをお互いに紹介するためポスターにまとめ、観光スポットを組み合わせ、半日のミニツアーをつくっていきました。

ミニツアーを実行するために、仕事を5つに分担しました。チラシを配り、ポスターを作る「お知らせ」グループ。参加者へのプレゼントを作る「体験」グループ。観光スポットのテレビを作る「テレビ」グループ。写真をホームページやツイッターに載せる「ネット」グループ。伝える内容や話し方の練習をする「ガイド」グループです。



実際にミニツアーを行い、お客さんから意見を聞いて、本ツアーを作りました。本ツアーの名称は、「遊んで、学んで、リラックスツアー」です。平成30年3月10日（土）に実施します。

### 3 意見交換

#### ① 活動の楽しさについて

(コーディネーター 南埜猛さん)

本日は、「まちづくりの輪を広げよう」ということで、8つの団体の皆さまから活動報告をしていただきました。

まず、活動の楽しさについて、お話いただきたいと思います。



コーディネーター

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教授

南埜 猛 さん

(人形劇団おやゆび姫 前田友子さん)

人形劇の楽しさは、人形を作っただけでは終わらずに必ず誰かに見てもらえるところにあります。子ども達はきれいな目をして、食い入るようにお話の世界に入り込んでくれます。演じる楽しさと、見てくれる子ども達の反応の楽しさを、直接、近い距離で感じることができます。

また、活動する仲間と公演のためにいろんなところへ行ることができます。アクシデントを乗り越えやりがいを持って仲間と活動できることと、お客さんが喜んでくれることが人形劇の楽しさです。

(けんこう笑会 大久保武さん)

月に1回会員が集まって、手品の練習をしています。最初はうまくいきませんが、練習を重ねて上手にできるようになり喜んでいきます。また、いろいろな施設で皆さんと一緒に手品をしていますと、子ども達は「やりたい」「教えて」と寄ってきます。高齢者の方は、目の前で手品をしたり、手品の道具を貸してあげたりすると、手を動かし笑いながら楽しそうにしてくれます。もっと範囲を広げて、魅力のある芸を見せていけたらと思います。

(NPO 法人ペイフワード 日下伸一さん)

ボランティアの方がすごく温かいので、子ども達は愛されている、必要とされていると感じてくれていると思います。ボランティアの方も「ごちそうさま」「ありがとう」の言葉をかけていただくことで、子ども達に必要とされていると感じていて、お互いに必要としている関係をすごくうれしく思います。

(兵庫教育大学附属小学校 西澤宏一さん)

楽しかったことが3つあります。1つ目は学校の中だけではなく、外に出る活動ができたことです。観光協会、商工観光課、図書館、道の駅など地域の方に温かく受け入れていただきました。2つ目は加東市の人々とのかかわりが増えたことです。本校の児童は、いろんな市から通っていますので、加東市との新たなつながりが生まれたと感じています。3つ目は地域に開かれた学校として、地域の方とのつながりを教師として実感できたことです。

## ② 問題や課題について

### (コーディネーター 南埜猛さん)

充実した楽しい活動の一方で、実際にやってみると困難や大変なこともあったと思います。悩みや課題について、お話いただきたいと思います。

### (河高地区歴史書編纂委員会 藤本貴樹さん)

4年間かけて歴史書を作ってきましたが、目途が立ちましたので、今後はどうつなげていくのかが課題になっています。解散という話も出ましたが、第2回の歴史ウォークを検討中です。また、資金の問題もあります。

### (おどろかど実行委員会 大橋翔さん)

団体として活動を続けていくためには、会員のやる気が一番大切だと思っています。いろいろな人が集まってくるので、仲間内での衝突は避けられないことですが、踊りを楽しむことや上達すること、お客様に楽しんでいただくことに集中できる状態をつくる円滑な団体運営が今後の課題です。

### (fの会 岡本智恵美さん)

去年から新たに加東市で始めた会なので、一緒に協力してくれるスタッフが欲しいです。いずれは親の会の活動を北播磨全域に広げたいと思っています。また、会場使用料や講師先生への費用負担などの運営費が課題です。

### (鴨川地域活性推進委員会 小藪義正さん)

1日3往復すると体力的にも疲れますし、今の乗務スタッフも高齢になっていきます。乗務の予定を調整することも大変で、乗務スタッフの確保が難しいです。また、お客さんの利便性を向上させたいけれども、バス運行の様々な制約があることが課題です。

### (コーディネーター 南埜猛さん)

市民の団体で解決できる問題もあれば、当然解決できない問題もあります。市民の役割、行政の役割の中で協力し合いながら何か解決策を見つけていくことが一つの方向性であると思います。

本日の活動発表の中で、ペイフォワードは、始めた以上はずっとやり続けたいというお話がありました。fの会の発表の最後は、未永くよろしくお願ひしますというコメントもありましたし、河高地区歴史書編纂委員会はこれからの活動が課題と言われていました。

そんな中、人形劇団おやゆび姫の活動が1991年から始まっています。どうして27年間続いたのか、その秘訣を教えてください。

### (人形劇団おやゆび姫 前田友子さん)

正直なところ、気がついたら27年経っていました。仲良しグループで閉鎖的になるのではなく、外に向けて開かれているようにしてきました。人形劇はいろいろな人で成り立つ活動なので、したいと思っただけでもどうぞ、ちょっとしたことでもお手伝いできるような雰囲気大切にしています。

また、入ってくれたメンバーには、「無理はしないでね」と言い続けてきました。休むことができない活動は、しんどくて続けることができなくなります。さらにおしゃべり会にもならないように心がけてきました。せっかくみんな時間を都合して集まっているので、おしゃべりもするけれども必ず練習もするようにしています。

無理のない範囲でできるバランスのよい活動を心がけてやってきた結果だと思えます。

(コーディネーター 南埜猛さん)

団体が閉鎖されているのではなく、オープンになっていること、無理をしないこと、活動の目的を常に意識することがポイントだと思います。

私自身、「川と池 人の暮らし研究会」の活動で加東市まちづくり活動費補助金をいただきました。東条川疎水の研究をして、「地域の人・水・土に学び、伝える」という冊子にまとめました。その資料を使って、社小学校の子ども達が地域学習の研究報告をしてくれたことがありました。

活動の一つとして、本日の発表会のように何らかの形で残す、記録するということが大切だと思います。記録に残すことによって、以前にこんな活動があったと次の人の参考になります。そして、記録に残ったものが、次の活動につながるきっかけとなります。

これからの活動はバラバラにするのではなく、それぞれの活動がつながり、まちづくりの輪を広げることが求められていると思います。ありがとうございました。



## 4 総括

8つの団体がまちづくりの輪を持ち寄って活動の発表をしていただきました。それぞれの団体が、活動の人数を増やしたり、活動地域を広げたりして成長することはまちづくりの輪を広げることです。

本日参加していただいた皆さまには、地域に帰られて自分の興味関心のあることから、まちづくりの輪を大きくする取り組みを始めていただきたいと思います。

行政の役割、地域の役割、市民の役割、それぞれ立場の違う者同士が協働することによって、まちづくりは進展していくと思います。

また、活動を継続するためのお話もありました。継続するためには、まず目標をつくることです。仕

事でも趣味でも同じですが、目標に向かって許された時間の範囲で一生懸命頑張っていく。目標に近づき、達成感を得ることが、また次のエネルギーになっていきます。自分の心持ち一つでエネルギーを生むことができますし、そのエネルギーを自分以外の方がもっと大きくしてくれます。周りの人の気配りや自分への評価が、さらに達成感を大きくします。

地域に帰られて、何かに取り組んでみようというまちづくりの輪を広げてください。市民の活性化が加東市発展のベースとなります。我々市民が考えを新たにして、市民としての役割をみんなで果たせるような流れをつくっていくことが、行政そのものを育てていくことにつながっていくはずだと思います。今日は本当にありがとうございました。



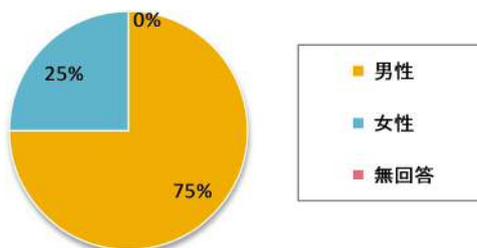
輝く加東 まちづくりコンソーシアム  
会長 荒木 勉 さん

## 5 アンケート結果

来場者数 95名 回答 48名 (回答率50%)

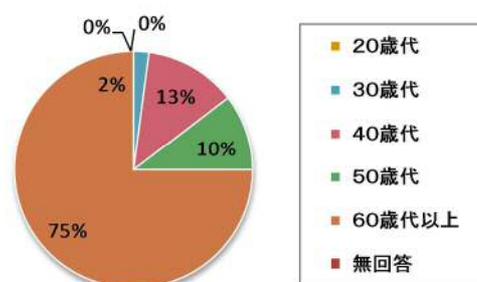
### 1 性別

選択肢	回答数
(1) 男性	36
(2) 女性	12
(3) 無回答	0
計	48



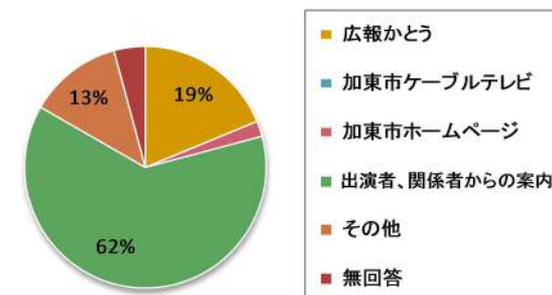
### 2 年齢

選択肢	回答数
(1) 20歳代	0
(2) 30歳代	1
(3) 40歳代	6
(4) 50歳代	5
(5) 60歳代以上	36
(6) 無回答	0
計	48



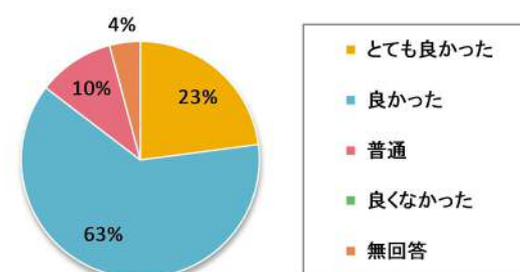
### 3 この発表会を何で知りましたか？

選択肢	回答数
(1) 広報かとう	9
(2) 加東市ケーブルテレビ	0
(3) 加東市ホームページ	1
(4) 出演者、関係者からの案内	30
(5) その他	6
(6) 無回答	2
計	48



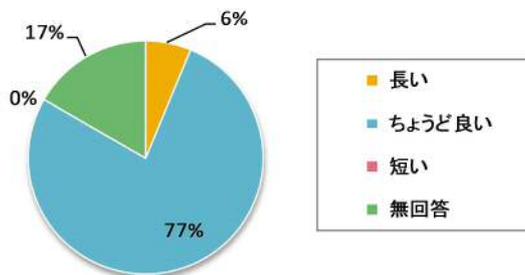
### 4 来場していかがでしたか？

選択肢	回答数
(1) とても良かった	11
(2) 良かった	30
(3) 普通	5
(4) 良くなかった	0
(5) 無回答	2
計	48



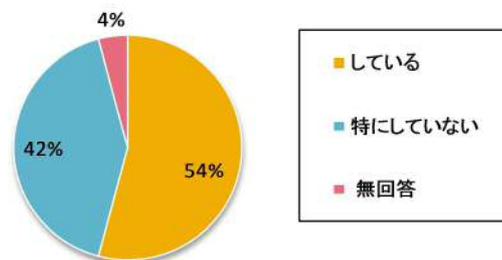
5 活動発表、意見交換の時間はいかがでしたか？

選択肢	回答数
(1) 長い	3
(2) ちょうど良い	37
(3) 短い	0
(4) 無回答	8
計	48



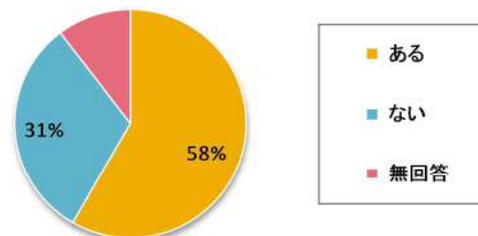
6 まちづくりや地域づくりなどに関する活動をされていますか？

選択肢	回答数
(1) している	26
(2) 特にしていない	20
(3) 無回答	2
計	48



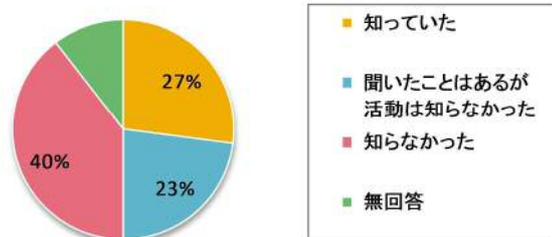
7 協働のまちづくりの大切さや、市民のみなさまの役割について考えたことがありますか？

選択肢	回答数
(1) ある	28
(2) ない	15
(3) 無回答	5
計	48



8 輝く加東まちづくりコンソーシアムについて、ご存知でしたか？

選択肢	回答数
(1) 知っていた	13
(2) 聞いたことはあるが活動は知らなかった	11
(3) 知らなかった	19
(4) 無回答	5
計	48



## 6 おわりに

本発表会において、出演団体、来場者から以下のような意見が寄せられました。  
寄せられた意見は、今後の活動発表会、加東市のまちづくりに活用させていただきます。

＜まちづくり活動を活性化させていくには、どのようなことが必要だと考えますか？＞

- 行政と市民との協働と情報の共有化の推進、各団体の取組の広報活動の強化。
- 行政による各種団体の活動の広報、市民への周知、資金支援。
- 市民の努力と、それを支える行政の助け。
- 団体の活動内容を披露する場。団体が活動するための課題や意見を吸い上げる場。
- 活動を知ってもらうための機会。
- 市民がまちづくりについて認識自覚すること。全体の問題としてとらえ、協力することの大切さを確認すること。
- 市民がまちの大切さを意識する機会を作り、意識を高めること。
- コミュニケーションを大切にし、お互いを知ること。人々、住民のつながり、関わりや情報の交換。
- 継続すること。
- 子ども、お年寄りが元気になる活動。弱者を助ける活動。
- 無理をせずに自分のできることをする。自分自身が行動して、参加する。
- 参加者を増やすこと。活動の中核となる 30 歳代 40 歳代の参加。



### <発表会についてのご意見>

- 発表の内容が多種多様で良かった。
- 今後も発表の場があると良い。
- もっと多くの人に聞いてもらえるよう、集客方法を考えるべき。
- 手話通訳・要約筆記について、とてもわかりやすく良かった。
- 参加されている方は、みなさんが非常に元気で若々しく、活発ですばらしく思います。人々の関わりがめんどくさくて、うっとうしく感じていたのですが、無理のない活動、自分でできることをやりたいと思う。



まちづくりには、その主役となる「ひと」、ひとが営む日々の「暮らし」、そして、「ひと」や「暮らし」のステージとなる「まち」が重要な要素になります。第2次加東市総合計画においても、市民や地域、事業者などと行政がそれぞれの役割を担いながら連携・協力して取り組む「協働」を基本に、「ひとづくり」「暮らしづくり」「まちづくり」「行政経営」を展開していく取組方針を示しています。

市民活動発表会では、それぞれの立場でまちづくり活動をされている団体から、様々な意見や問題提起をしていただきました。どの団体も、目標に向かって仲間と力を合わせ、活動を楽しんでおられます。市民活動発表会が、活動をされている団体の励みとなり、新たなまちづくりの輪が広がる機会となることを願います。

平成30年7月 輝く加東 まちづくりコンソーシアム事務局（加東市市民協働部人権協働課）

## 7 輝く加東 まちづくりコンソーシアムの紹介

### (1) 組織の概要

#### ア 目的

兵庫教育大学のあるまちの優位性を生かし、大学と行政のみならず、地域、NPO、企業など様々な主体が連携し、それぞれの特性を活かした協働を通じて、教育学習、人材育成及び地域発展に関する事業を行い、魅力あふれる地域社会の創造を目指す。

#### イ 構成団体

加東市、兵庫教育大学、加東市商工会、小野加東青年会議所、加東市いずみ会、加東市観光協会、加東市区長会、加東市国際交流協会、加東市小学校長会、加東市中学校長会、加東市連合PTA、はあとネット、みのり農業協同組合、社高等学校、米田ふれあい協議会  
(以上15団体)

アドバイザー：兵庫県北播磨県民局

### (2) 取組状況

#### ア 地域課題解決に向けた取組

- (ア) 設立記念フォーラム (平成23年12月17日)
- (イ) 学生フェスタ「こんな加東市に住んでみたいな」 (平成24年11月11日)
- (ウ) 加東市地域公共交通フォーラム—私たちのまちの交通を考えよう—  
(平成26年2月23日)
- (エ) 加東市公共施設の適正化フォーラム～未来ある子どもたちのために～  
(平成27年1月24日)
- (オ) 市民活動発表会—私たちのまちづくり— (平成28年3月12日)
- (カ) 市民活動発表会—まちづくりについて考えよう— (平成29年3月19日)

#### イ 子育て支援に関する取組

- (ア) 子育て支援講座の開催 (平成22年度から毎年度実施)

#### ウ 加東市・兵庫教育大学連携プロジェクト

##### (ア) オリジナル健康食開発

「食」の大切さについて改めて認識してもらうとともに、日常の食生活を今一度見直してもらおうと、兵庫教育大学との協働により栄養学の観点を取り入れ、加東市産の食材を使用したオリジナル健康食を開発。(いずみ会調理協力)

##### (イ) 「教育子午線のあるまち」モニュメント

兵庫教育大学が取り組む教員養成課程を、子午線が通る日本の中心・加東市から全国へ発信し、加東市を「教育子午線のあるまち」としてまちづくりに取り組むシンボルとしてモニュメントを設置。(設置場所：東野街角公園)

---

## 市 民 活 動 発 表 会

－まちづくりの輪を広げよう－

平成30年7月

<編集・発行>

輝く加東 まちづくりコンソーシアム

<事務局>

加東市市民協働部人権協働課

〒673-1493 兵庫県加東市社50

TEL0795-43-0544/FAX0795-42-1735

---